特別増資 500250 にて 1 口 500 円。ご協力宜しくお願い致します !!

COOP JOSO NEWS LETTER 2017 11-5
2017. 11. 13
COOP-JOSO News Letter
常総生活協同組合
発行 / 生協広報G
facebook やっています!
常総生協facebook

【ものづくり・人づくり・地域づくり】2017 年度活動テーマ ～地元のやさいを食べよう～

も～っと地元のやさいを食べよう !! 生産者同士が手を取り合って、組合員も食べて支え合っていく、

「野菜サポート会員」スタート !!

※今週配布の「野菜サポート会員募集」チラシに詳しい詳細を記載していますのでご覧ください

【2017 年 11 月の予定】

●生協基幹運営／地域活動・催し●	●提携・協同・連帯企画●
【定期開催の催事】 ・ 毎週木曜日につくば桜運動公園ゴンタの丘にて地域コミュニティ活動中。 ・ ゆるカフェ 11 月は生協まつりの準備等で開催中止となります。 ・ 毎月第 1 土曜日にじょうそう朝市を開催しています。 ★生協まつり実行委員会打ち合わせ（11/22（水）） 11/16（木）鈴木牧場産地交流会③ 11/18（土）光風台まつり、歴史を学ぼう市民講座 11/19（日）まめいち 11/25（土）生協まつり 11/29（水）理事会	11/18（土）二本松有機農研収穫祭

常総生協の農産物に関する考え方

常総生協の農産物は、次ぎのような考え方に基づいて、皆様のもとに届けられています。

●農産物取り組みの考え方

農産物は商品というより食べ物・生命を支えるもの。だから、常に、その農産物が組合員一人一人の健康を支えるものであるかどうかを重視します。これについて、画一的な見方をせず、様々な角度から検討しています。**「農産物は人の健康・生命を支えるもとだね」**であると考えます。したがって、農薬の使用状況のみならず、生産者の作り方、考え方等様々な話しをして行く中で、この、組合員の健康を支えて行く、という点を理解し合い、生産者もこの考えを大切にしてくれるかということを重視しています。企画の際の判断も、まずこの１点を最優先に考えます。

●農産物取り組みの基準

★まず人ありき

農産物は人が作っています。自然も土も人が生かし、生かされています。素材も人が選んでいます。一つ一つの食材の中に、生産者の姿勢と生き方が込められています。健全な農産物は健全な畑から、健全な生産者の手で生まれます。そういう**生きた農産物であるか、元気の出る農産物であるか、が大切だと思います。**

したがって、有機農産物のみ、とか無農薬だけ、といった、画一的で分かりやすい基準というものはありません。もちろん農薬等、体に取り込まないほうが良い物は入れないほうが良いのは明白です。ただ、栽培において、高温多湿な日本の気象条件、これまでの長年の化学肥料、農薬の大量使用でやってきた日本の大部分の農業の実情からしても、無農薬でなければ切り捨てるというようなやり方では、いつまでたっても健全な農産物をつくろうという生産者が育たないのも事実です。農業分野の環境への負荷が大きいということが広く認識されてきている現在、常総生協との取り組みがある無しに関わらず、環境への負荷を減らし、人の健康を真に考えられる生産者を一人でも増やすことがこれからの大きな課題であると考えます。

★農産物は土作りが基本

有機農産物という言葉が流行りですが、私達は有機か無機か、という問題より、

- 土に微生物が棲み有機物をきちんと分解できること、粘土による団粒構造が作られて保肥力のある土地で、地下部の根張りがきちんと出来ていること（余分な窒素を植物に吸収させない）。
- 土にミネラルがあり、植物の代謝がきちんとできること。

これらが前提となる生産者であるかどうかが重要だと考えます。常総生協は野菜の欠品があるとの意見もありますが、足りないからと言って市場から調達してまかなうようなことはいたしません。誰がどのようにつくったかわからないものは供給できません。生きたものは工場生産とは違います。農薬を無くしたり、天候等の影響でうまく作れなくても、良いも悪いも出し合い、生産者と率直に語り、ともに研究し、来年に生かしていく・・・・一つ一つの気の長い共同の作業が生協ならではの事業です。これなしに安心の食べ物など、安易に手に入るとは思っていません。

★無農薬であるかは重要。無農薬への絶えざる努力も重要。

危険な物、安全面で疑わしいものを体にとり入れないようにするために、農産物の農薬の問題は重要ですが、この点も含めて日頃取り組んでいることは、

1. **生産者のところにまめに通う。**
2. **生産者がどういう人かよく理解し、信頼関係を築く。**
3. **こちらの意図を理解してもらう。**

以上の３点です。

一般的には、納品された農産物を抜き取り検査して残留農薬をチェックし、予定外の農薬が検出されたら一定期間出荷停止にする、というやり方もあるかと思われます。検査自体は、抜き取りで外部期間に依頼するか、独自に、あるいは仲間と機械を購入する等して検査すれば済むことなのですが、これはやっていません。この方法では、産地に対し一定のプレッシャーを持たせることは可能かもしれません。また、広く不特定多数の人に対して説得力を持たせるには一番簡単で取り組みやすいのですが、結果が伴うかと言えばそうとも言えないと考えます。というのも、

1. **常に全量検査することができない。**
2. **使用しても残留しない農薬が多い。**
3. **きつねとたぬきのばかし合い的な状態に陥る。不信関係になる。**

という事情があるからです。と同時に、身に覚えの無い検出結果で出荷停止あるいは取引停止にされるという場合もあると聞いたことがあります。その一方で、過去半年以上さかのぼって使用された農薬も検出できるという機械を備えて、とにかく農薬使用の有無、多寡だけが最優先の課題に

なっているような団体もあるようです。

★常総生協の場合、規模が小さいので、

1. **大量集荷のために、よくわからないものもかき集めるという必要が無いので、疑わしいようなところと取り組む必要が無い。**
2. **「対産地」でなく「対生産者」レベルでの取り組みが多いので、圃場、倉庫、家屋、資材等、見るべき個所も絞られるので把握しやすい。かつ、生産者個人がどういう人か、どういう考え方をもって取り組んでいるか把握できる。**

という利点があります。

また、無農薬の農産物について、こちらから強制的にこれは無農薬で作りなさい、できなければ取り組みはやめますよ、というようなアプローチをするのではなく、減農薬で少しづつレベルを上げていき、生産者ができる、となってから様子を見て無農薬表示へと移行していく、という手順になりますので、生産者も無農薬でないものを無農薬だと言い張る必要がありません。

一方で、無農薬を基本においていても、病気や虫の発生が著しい場合は殺虫剤殺菌剤を使用せざるを得ない場合があれば、生産者は隠す必要はありませんし、生協でもそういうボーダーライン上のものについては無農薬と言わないか、あるいは使用する場合ありとコメントしています。

また、無農薬野菜セットの清水さんや微生物農法の会の長島さんのように、就農の最初から長年にわたり無農薬で取り組んでいる生産者の場合は、相手からの要請や商売優先とはまったく反対に、自分のポリシー、生き方として無農薬を貫いていますので、こういう場合は使う、こういう場合は使わない、ではなく、頑として使わない、使わないのが当然、ということになります。例えば、使わないことで欠品が続くとか、ロスが膨大になる場合、こちらから見れば１回使用しても普通のものに比べればずっと少ないし、最低限の生活を維持するためにも認めてあげて良いと思っても、やはり頑として使いません。

生協も、生産者は敵ではなく、ともに人の健康に良い物を供給しようという共通目的をもつパートナーと見ています。したがって、無理強いをせず、ステップバイステップで農薬を減らしながら、無農薬でいけるものは無農薬へ移行するというやり方、そしてお互いに包み隠さず話し合える環境を整えることが、安心できる農産物を手に入れる近道と考えています。

具体的には、

①個人の生産者との直接の取り組みの場合

②産地事務局が管理する場合

があり、

① の場合は、上記のようにまめに足を運んで現状を確かめることが中心です。いろいろな話しの中で、農薬を使いそうな見とおしのある物は「使う」、といえる関係を作るようにしています。

② の場合は、常総だけでなく、他の有機農産物等の団体に出荷しているケースが多く、ＪＡＳ法により、産地自体がかなり厳しくチェックしていることと、常総はさらに、その産地の中の個人の生産者を指定しますので、その人のところに頻繁に通い、その人をよく理解し把握するという作業を主にしています。

いずれにせよ、市場物、もしくはこれとあまり変わらない大規模流通のものを取り組むわけではありませんので、より明確な把握の仕方が可能と思います。

★忘れてはならない点として、

1. 国の法律（JAS 法）として有機農産物がどういうものか決められることになっているが、具体的に農産物のチェックをどうするかといえば書類審査が中心となっています。認証団体も常に農家に張りついているわけにもいかないので、厳密に言えば、大規模流通の中では本当に有機農産物なのかはわかりません。また、残留農薬の検査をしてもわかません。
2. 農薬の使用がどうか、という尺度だけが最近特に言われているが、そこから更に進めて、人の健康に寄与する、身体に良い農産物か、あるいは生産者はそういう作物を作ろうと常に考え実践しているか、という視点が抜けているとも思われます。というのも、有機農産物であっても、肥料のバランスが崩れたり多すぎたりして野菜の中の硝酸値がやたらと高いものがあったり、虫があまりつかず、耐病性も高いが食味は宜しくない品目というのもあります。

農産物は商品というよりまず「食べ物」＝「いのちのもとだね」、と考えますので、世の中が有機有機と騒いでも、そういう農薬、化学肥料等の使用の基準だけに走らず、栄養成分がしっかり含まれる野菜を作れるような土の作り方、野菜の育て方を勉強しなくてはと思いますし、また、そのような視点、考え方をもった生産者を増やしていきたいと思っています。それが、ひいては健全な農産物を皆が食べられるようになる近道と考えます。

１つ１つに目が届くこと。1人1人に目が届くこと。手がかかりますが、この地道な活動を通して、「常総生協の農産物なら安心」、あるいは「常総生協に出荷するのはやりがいがある」という信頼感を、みんなの力で強固なものに育てていきたいと思います。

生産者同士協力し合って、組合員さんも消費することで地場の産物を無駄にしない

昔から「四里四方に病なし」という言い伝えがあります。 四里四方でとれる食材を食べていれば病気知らずで健康でいられるという伝えです。 同じ気候風土の中で育ったものは、そこで暮らす人の身体にもなじみ、そこの旬を頂けば季節季節で身体が必要とする栄養素やミネラルも摂取できる。 そんな自然の摂理、言い伝えを私たちは大切にしていきたいと考えてきました。

作物も同様で、そこの土壌、気候風土の中で生き残り農家の目と手で選抜されてきたものは病気や虫にも強く、農薬もいらない。 大豆などはとてもナイーブで、同じ種でも隣の県で播いても育たないことさえあります。 昔外国から入ってきた種子も長い年月の中で、日本の土壌や気候風土を何世代も重ねてきたこともあり、この自然風土に適合するように変わってきました。 その地で生き残り、伝えられてきたタネ・伝統野菜があります。 これらは「在来種」「遺伝資源」と呼ばれます。 人間もそこの気候風土の中で食物を頂き世代を重ねることで体質・遺伝特性がつくられてきました。 これらをもって「身土不二」とも呼ばれます。

地場のやさいを食べる事。生産者、産地を知る事から自分たちローカルエリアの「食」を大切にし、「身土不二」の精神を持った活動にしていきたいと考えます。

そうした想いから今回、地元の生産者同士が手を取り合って協力していき、地場の消費者である組合員が余剰になってしまう地元の作物を無駄にしない取り組みにしていく事ができる様にと「野菜サポート会員」を発足しました。

【野菜サポート会員の仕組み】

1. 1 回のお届けは 300 円 (税込) 以下です。物量に応じて、200 円、150 円などで値段設定します。
2. お届けは通常の配達日と同じですが、数量・品目を事前にお知らせすることはできません。余剰が出たタイミングでのお届けとなりますので予めご了承ください。

【どんな野菜が来るの？】

畑の状況によって様々ですが、基本的には畑の中での余剰となる野菜が対象です。春温かくなる 3 ～ 5 月、秋涼しくなる 10 月頃がほうれん草･小松菜など葉物系。夏場はトマト、なす、きゅうり、ピーマン。冬場は大根・白菜など根菜系が余剰になる可能性が高いです。一度に届く量としては 300 円以下ですので、1 品もしくは 2 品目となります。

【何故 !? 余剰野菜が出てしまうの？】

生協の仕組みが事前注文という事もあります。常総生協では、鮮度の良い野菜をお届けする為、その日に●●個必要と、毎日数ピッタリで納品される仕組みです。むしろ、少なかったり、多すぎたりすると困ってしまいます。生産者もカタログと合わせたタイミングで (その週の) 収穫に合わせて種まきをするのですが、天候の影響でどうしても収穫時期がずれてしまうことがあります。

この時に注文が集中したり、想定より注文が少ないと欠品・または余剰が発生してしまいます。また、余剰が出て売り先がなければ市場に出すしかなく、生産者が組合員の為に心をこめて育てた野菜も他の野菜と一緒にされ想像しがたいような安価な値段で流通されます。

常総生協へ集う生産者達が一つの生協の商品利用の仕組みとして協力体制が取れたことは、大きな前進になります。全員が同様の農法ではありませんが、同じ様に悩みを抱えています。常総生協だからこそできる生産者との付き合い方として、新しい提案になります。

組合員と生産者と職員の広場

○次回の企画をしえて下さい。

ランカスターさんのスーパーグレード茶葉使用のルイボスティーがとても美味しかったです。次回早目に企画をお願いします。

（土浦市　M.Y さん）

ご意見ありがとうございます。次回の企画は今週届けている商品案内 11 月 5 回 NO.383 にて企画しています。引き続きご利用ください。

（商品部　横関）

○職員の皆様へ

いつもお世話になっております。急に寒さがやってきました。つい姿勢がよくなくなり気がつくと背を伸ばしてます。どうぞ職員の皆様には風邪など寄せ付けませにように！ご活躍下さいますよう、心から願っております！！

（取手市　T.K さん）

ご声援ありがとうございます。これから生協まつり、年末・年始と目まぐるしくなりますが、職員一同体調管理に気を付けていきます。上半期の決算も厳しい状況でしたので、組合員さんに「他で購入するなら常総生協で購入する」と言っていただけるように頑張ります。今後も宜しくお願い致します。

（職員一同）

○減災への意識

防災食特集をしてほしいです。組合員さんが実際に常備しているものや、常総生協さんで買った物で実際に役に立った物、被災時の調理法（サバイバル調理）を特集していただけたら減災への意識も高まるのではと思います。

（守谷市　K.W さん）

ご意見ありがとうございます。

この頃、大きな災害はありませんが、今後何が起こるか予測できないのが現状ですね。地震もところどころ起きていますので、防災に関しての商品ラインナップも今後検討していくように致します。

（商品部　丸山）

○リピートします

ナガノトマトさんの国産つぶ野菜入りケチャップですが、朝食のスクランブルエッグにかけて食べたのですが、感動レベルの美味しさです !! 子供いわく、ミートソースみたいだと言ってましたが、酸味が程よくきいていて、コクもあり、フレッシュな美味しさがたっぷり詰まったケチャップですね！ 295 グラムに対しては、少しお値段は高めですが、価値があるのでまた買います。

（つくばみらい市　ひーたんさん）

○やさとの仲間に入っていた「九条ネギ」が美味しかった♪

少し前に入っていた九条ネギが大変おいしかったです。フライパンで少し炒めて塩でいただきました。簡単で早い調理でもおいしい野菜は本当にありがたいです。家族も後になって「あのネギはおいしかった・・・」と思いだしてました。

（龍ヶ崎市　Y.I さん）

○見やすくなりました♪

いつもお世話になってます！ CO-OP MAIL JOSO　が見やすくなって助かりました。今までチラシが不規則にはさんであって不便を感じてましたので。これからもよろしくです！

（つくば市　M.S さん）

【11 月 5 回 News Letter 用】わが家の『ひと手間』・『ひと工夫』始まります！

常総生協で推進している「手作り」。それぞれのご家庭で生協の商品にちょっとした『ひと手間・ひと工夫』を加えて利用している組合員さんも多いと思います。

今回 11 月 5 回をスタートに、組合員の皆さんから寄せられた『ひと手間・ひと工夫』レシピをカタログ本紙でもどんどん紹介していきます！該当レシピは右のマークが目印です→

このマークを目印に、紙面上でも知恵の交流を進めていきましょう。

第 1 回目となる今回は、カタログ表紙にて取手市の P.N みくママさんからの『ひと手間・ひと工夫』をご紹介しています。簡単かつ美味しい提案になっていますので、ぜひお試しください。次回は来週、12 月 1 回のカタログ 7 ページに掲載予定ですのでお楽しみに♪

＜大募集中＞

1 月に最盛期を迎える木村農園の「三浦大根」です。 今は主流品種ではないのですが、この大根は肉質が緻密で、煮物などにすると一層美味しさが引き立つ素晴らしい品種なのです！木村さんにも組合員さん専用に作付のお願いをしており、ぜひこの伝統品種を伸ばしていきたいということで「ひと手間提案・レシピ」を募集します。本格レシピから些細なひと手間でも構いません！（匿名希望の方はペンネームでも OK ♪）皆さんの熱い想いをお書きください！！(^^)

第 69 回　脱原発と暮らし見直し委員会　報告

2017 年 11 月 6 日 (月)　常総生協本部組合員室　13 時半～ 16 時　組合員 13 人参加。

★チーム活動報告

○市町村のセシウム測定データ収集

収集したエクセルファイルの一部を生協の HP で公開しました。残りのファイルも整理ができ次第公開します。測定データが少なくなり更新のない自治体が増えてきました。

○ DVD 貸出

生協の負担軽減と DVD の管理のためシステムを変更する予定です。変更作業に少し時間がかかるかもしれません。2017.9.30 に土浦で行われた吉原毅講演会「原発ゼロでがっちり」の DVD を寄贈いただきました。登録済みですので貸し出せます。

○土壌調査

10/5 に土浦市内 4 か所で委員による土壌採取を行い生協で測定しました。雨樋の下など水が溜まりやすい場所で高い値が検出されました。今後、各地で土壌採取を行う予定です。組合員さんの近所で測定してほしい場所がありましたらお申し出ください。

★参加報告

10/28（土）落合栄一郎氏講演会－ 21 世紀の核問題－（東京）

★今後の活動

○ 2015 年に亡くなられた琉球大学の野原千代さんの活動を組合員で共有する提案をしました。

○近々、東海第二原発の 20 年延長申請が提出される予定です。20 年延長を阻止するため、委員会も生協の活動に協力することになりました。

★次回は、12/4(月)13 時半～ 16 時（生協本部）の予定です。

委員会はどなたでも自由に参加できます。関心のある方はお気軽にお越しください。